

年度 2008 学期 前期	曜日・校時 火曜日・4校時	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	生物の科学(生物のくらし)/Biological Sciences (Life of animals & plants)		
対象年次 1, 2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 自然科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: <b>中西弘樹</b> /Eメールアドレス:hiro-nak@nagasaki-u.ac.jp /研究室:教育学部 411 室 /TEL:095-819-2334 /オフィスアワー:毎週水曜日 16:30~18:00			
担当教員(オムニバス科目等)			
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</p> <p>授業のねらい:生物のくらしについての基礎的な知識を身につけるだけでなく、生命観、生物に対する尊厳などの考えができ、それを基にヒトに対する見方も変わることがをねらいとしている。</p> <p>授業方法:講義が中心であるが、補助的にビデオを使って理解を助ける。基礎知識については板書をしてまとめる。</p> <p>授業到達目標:生物のくらしについての基礎的な知識が身につく、生物の行動やくらしを説明できる。ヒトの行動を生物学的にとらえることができる。</p>			
<p>授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <p>授業内容(概要)</p> <p>生物のくらしに関する事柄について、興味深い3つのテーマについて講義をする。すなわち「体内時計」「動物の行動学」「生物どうしの関係」である。</p> <p>第1回 Introduction:生物とは、生物学とは、鳥の渡り 第2回 鳥の渡りの研究史、鳥の定位 第3回 動物の体内時計1 第4回 動物の体内時計2 第5回 ヒトの生活リズム 第6回 時計生物学、体内時計のまとめ 第7回 ミツバチの行動学:帰巣本能 第8回 ミツバチの行動学:情報伝達 第9回 ミツバチの行動学:色と香りの識別 第10回 魚類の行動 第11回 他の動物の行動 第12回 生物どうしのつながり 第13回 捕食と被食の関係 第14回 動物と植物の共生:花とポリネーター 第15回 動物と植物の共生:動物による種子散布</p>			
キーワード	生物のくらし、共生、動物の行動、体内時計		
教科書・教材・参考書	「種子はひろがる」 中西弘樹著、平凡社 「動物と太陽コンパス」 桑原万寿太郎著、岩波書店 「花に秘められたなぞを解くために」 田中 肇著 農村文化社		
成績評価の方法・基準等	試験の結果(80%)と授業への参加状況(20%)によって評価		
受講要件(履修条件)	原則として全回出席すること		
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)			